



きくち整形外科 菊地淑人院長

東京郊外だが23区に近く、都市化が進む調布市。名物の蕎麦や植物公園などの観光地で知られる深大寺は、市内でもどかな雰囲気が多く残っている街並みだ。そんな深大寺の観光スポットから少し離れた、緑豊かで落ち着いた場所にあるのが「きくち整形外科」。院長の菊地淑人先生は、勤務医時代から調布に在住。穏やかでのんびりとしたこの街に親しみ、2006年に開業することになった。手外科という数少ない専門科目を扱いながら、もともとは建築家志望だったという菊地院長。機能や構造を追及する点で、整形外科と建築学は似ているのかもしれないと語る。専門性だけにこだわらず、患者の希望やニーズをスタッフとともにていねいに汲み取り、院内から訪問まで、分野を広げて治療やリハビリに取り組む菊地院長にお話を伺った。

(取材日 2015年4月1日)

複雑な「手」の動きと治療に詳しい
数少ない整形外科医院

一開院までのいきさつを教えてください。

2006年10月2日にはオープンしましたので、9年目になります。僕は調布生まれではないのですが、現クリニックの近くに住んでおり、先輩開業医より紹介を受けて開業を決めました。それでは、当院に勤務しており、調布から通っていました。調布は都内でありながら自然がまだ残っており、かつ比較的都心からも近いという便利な土地で大変に入っています。

—どのような患者さんが多いのでしょうか。
勤務医時の外来は主に午前中のみですが、今は夕方遅くまで外来を開いておられます。学校帰りの子さんも含め、軽症から重症まで、老若男女いろいろな世代の患者さんを診察します。この地域には古くから住んでいる年寄りも多く、患者さんもお年寄りは多いのですが、最近では90歳代の方が増えた印象があります。近くには新しいマンションや分譲住宅が増えています。若い世代やお子さんの数も増えてきています。また、僕の専門の手外科を専門とする医者は多摩の方で、勉強会を行ったり、安全委員会を作つて、ヒヤリハット事例を検証しフィードバックするという活動もしています。またスタッフが患者さんの歩き方を見て、ふらつきがあるというような情報を全員がしっかりと共有するように話しています。また患者さんが転びやすそうなので理学療法士による運動リハビリをやった方がよいのはという上申をスタッフから受けることもあります。そのためふらつきがあるといふ状況を全員がしっかりと共有するように話しています。また患者さんは良くなっただけでなく、他の患者さんも良くなっただけでなく、軽く伝えていました。みんな余裕があるわけではありませんが、患者さん一人ひとりの話を聞いて、要望や状況を吸い上げるという機会を多く持みたいと思っています。

—訪問リハビリも行っているのですね。
開業して4年経った頃、理学療法士が訪問リハビリをやりたいと希望してきたので、最初はスタッフ一人で、半日の訪問リハビリからスタートしました。患者さんはどうやって家で過ごしているのか、日々の生活環境を確認してサポートしたい、今まで通っていたのに通えなくなってしまった患者さんを何とかしたいと考えたようです。病院と患者さんの家では環境が全く違いますから、自宅でのリハビリはクリニックでのリハビリと違って、日常生活の改善に直結するものにならないと思います。最近は3人のスタッフが毎週のべ3日訪問し、利用者も15人くらいいます。彼らスタッフにとっても経験を広げ、成長するよい機会になったのかなと思っています。現時点では人の余裕が多く、ケアマネージャーとの連携をしつ

スタッフが、例えば野球選手なら投球フォームのチェックを行うなど、細かいケアも行っています。

患者にとって本当に必要なことを、スタッフと一緒に見つける

—設備や診療方針など、こだわっている部分はありますか。

特別な治療機器はありませんが、一般的ものは揃っていると思います。医師は僕一人なので忙しいのですが、患者さんが替える時間を作り、効率よく聞いて、あげてくださいと日頃から伝えています。患者さんは納得して満足して帰っていただくことが大切と思っています。

—訪問リハビリも行っているのですね。

スタッフが、例えば野球選手なら投球フォームのチェックを行うなど、細かいケアも行っています。患者にとって本当に必要なことを、スタッフと一緒に見つける

—スタッフは何人くらいのものでしょうか。

医師は僕だけですが、看護師や理学療法士、放射線技師などの専門職を中心に常勤・非常勤でスタッフは25人います。みんな前向きで、スタッフの中で勉強会を行ったり、安全委員会を作つて、ヒヤリハット事例を検証しフィードバックするという活動もしています。またスタッフが患者さんの歩き方を見て、ふらつきがあるといふような情報を全員がしっかりと共有するように話しています。また患者さんが転びやすそうなので理学療法士による運動リハビリをやった方がよいのはという上申をスタッフから受けることもあります。そのためふらつきがあるといふ状況を全員がしっかりと共有するように話しています。また患者さんは良くなっただけでなく、他の患者さんも良くなっただけでなく、軽く伝えていました。みんな余裕があるわけではありませんが、患者さん一人ひとりの話を聞いて、要望や状況を吸い上げるという機会を多く持みたいと思っています。



—今後の展望や、読者へメッセージをお願いします。
を専門とすることを決めていました。

—休日はどう過ごされていますか。

最近腰が痛くなり、年齢的なことも考慮するようになり、しっかりとストレッチをやるようになりました。日常生活で比較的忙しいので、休日はのんびりとリフレッシュするようになっています。映画を見たりジャズのライブに行ったり、7～8年続いているサッカースの教室に行きました。なかなかうまくなりませんが……

—医師をめざしたきっかけを教えてください。
建築家志望から医学部へ、整形外科との共通点は……
ですね。

実は僕は医学部志望じゃなくて、建築家になりましたが、建築の領域になってしまっていますので、その後患者さんがどうしているかわからなくなることが多いのが現状です。ただ、患者さんは非常に考えながら治療に当たっています。手術が必要な患者さんに対しては、手術をしてからも治療を紹介し、手術後はリハビリを当院で引き受けます。手術が必要な患者さんに対する手術が増えてきます。特にやせている人が偏食がちな人は早くから骨粗鬆症になります。当院では骨密度を測定する機器も備えていますので、ぜひ相談してください。

—手外科についてもお話しを教えてください。
ホームページで「手外科」と書かれているクリニックも少ないので、特に、野球など上肢を使うスポーツや仕事で使う方には切実なので、患者さん同士で情報交換しているのかかもしれません。市のクリニックからも治療を受けられる患者さんもいます。遠方からの患者さんは腱鞘炎や手根管症候群による手しびれなど、一般整形外科や他診療科を受診しても症状が治らなかった方が多いです。整形外科はお年寄りの病気や子どものケガが多いと思われがちですが、中年期の女性も多く、特に50歳前後になると、手のしびれや手指の痛みが出てきます。手術が必要な患者さんに対する手術が増えてきます。特にやせている人が偏食がちな人は早くから骨粗鬆症になります。当院では骨密度を測定する機器も備えていますので、ぜひ相談してください。

が始まり更年期となると、手のこわばりが出で動かしづらくなり、手指の腱鞘炎やばね指、手根管症候群によるしびれが出るというのは非常に多くあるパターンなんですよ。手指の痛みの場合、リウマチかと思って内科でも何もなくて、当院を防ねられて腱鞘炎であったり、手のしびれは首が悪いと言われて、整形外科に行くように言われた方が、手根管症候群だったりすることもしばしば経験します。また、50代を超えると骨粗鬆症の方が増えています。特にやせている人が多いですね。当院では骨密度を測定する機器も備えていますので、ぜひ相談してください。

ドクターズ・ファイル
スマートフォン版



「イマチカ検索」で
今から診てもらえる
近くの医院・病院をボタン1つで検索！

DATA

きくち整形外科
調布市深大寺東町2-23-5 深大寺メディカルビル101
TEL: 042-440-3200
つつじヶ丘駅/整形外科